

JICA Brazil Business Communication

～ブラジルの第一線で活躍するビジネスパーソンの皆様へ～

目次

1. 民間企業との連携

- (1) 2月の民間企業調査団13社決定！ビジネスマッチング参加歓迎！
- (2) 宇都宮工業の汚泥除去装置「週一君」で環境を守る！
- (3) 地下埋設物管理の世界から、デジタルトランスフォーメーション！

2. トピックス

- (1) 北岡理事長のブラジル訪問と「ODA60周年式典」、「フジタ・ニノミヤチャエア特別講義」の実施
- (2) JAXA衛星×産総研AIでアマゾン違法伐採の監視強化！新規技プロがスタート！
- (3) ダイキン主催のKONWAKAIとは？
- (4) ボランティアの皆さん、発表お疲れ様でした！ @活動報告会

《今後の主なイベント》

- 1月24日（金）：新規ボランティア17名の任地赴任
- 1月30日（木）：2020年度日系社会研修（下半期）募集開始（3月12日募集〆）
- 2月2日（日）～15日（土）：民間企業調査団13社の来伯（4日はSPでビジネスマッチング実施予定）
- 3月～：フジタ・ニノミヤチャエア2020年正規課程講義開始

【コラム】～在日日系人社会をサポートするための日系人派遣～

2020年は「日本のブラジル人社会30周年」を迎えますが、JICAはこの節目の年に新たな取組“在日日系人社会をサポートするための日系人派遣（※名称検討中）”を試行します。

1990年の入国管理及び難民認定法改正以降、就労目的で中南米から日本に渡る日系人が増加し、**現在約24万人（ブラジル人約19万人、ペルー人約5万人）の日系人が国内産業を支えています。**しかし、彼ら日系人の子弟は、言葉の問題から学校で十分に教育内容を理解することが出来ず、学校側も補習クラス等でポルトガル語、西語を使用しながら教えられる教員が十分でないのが現状です。また、病院や自治体役場等の公共サービス提供機関でも、これら言語を話す職員や通訳が少なく、在日日系人への対応が十分に行き届いていない状況です。他方、中南米日系人の中には、日本語教師や看護師等を目指す（従事する）人、また各分野において日本での学びを通じて専門性を磨く機会を得たいと考える人々が存在します。

JICAの新たな取組では、これら日系人を日本国内の日系人集住地に派遣し、日本の受入機関における制度や取組を学びながら、課題を抱える日系人子弟や家族、従事者への支援を提供することを目指します。ブラジルでの応募者募集は2～3月を予定していますので、詳細はJICA HPにてお知らせ致します。

<https://www.jica.go.jp/brazil/portuguese/office/trainings/nikkeis01.html>

1. 民間企業との連携

(1) 2月の民間企業調査団13社決定！ビジネスマッチング参加歓迎！

2月2日（日）から2月15日（土）までの14日間、ブラジルでのビジネスに関心を持つ日本企業13社が来伯します（名称：第9回中南米日系社会との連携調査団）。2月4日（火）には、サンパウロでのビジネスマッチングセミナー&商談会を計画・準備中です（開催予定会場：サンパウロ州工業連盟 FIESP）。詳細なプログラムは別途ご連絡致します。13社との面談を希望される皆さまは、是非ご参加を検討頂ければ幸いです。

（参加企業一覧）

No.	企業名	主力製品・技術・サービス	所在地
1	(株)川原茶業	嬉茶、ブレンド茶、卸業	佐賀県
2	(株)アグリツリー	ソーラーシェアリング導入関連サービス	福岡県
3	メビオール(株)	フィルム農法（アイメック®）	神奈川県
4	(株)リバティソリューション	自動排泄処理装置	島根県
5	ブランテックインターナショナル(株)	「HybridICE」による製氷機、冷凍設備、物流システム	東京都
6	(株)京都科学	医学・医療教育用教材の開発・製造・販売	京都府
7	(株)環境ダイゼン	「液体たい肥 土いきかえる」	北海道
8	ジージーピー(株)	プロバイオティクス混合飼糧	大阪府
9	(株)Idrasys	AIを活用したサービスの企画提案、開発、販売	東京都
10	(株)MICOTO テクノロジー	医療用シミュレーションロボット	鳥取県
11	(株)鈴木製館所	生館・煉館等の製造、企画立案	神奈川県
12	甲陽興産(株)	環境総合コンサルティング	滋賀県
13	(有)ゆいまーる牧場	石垣牛、アグー豚、飼料、水産品	沖縄県



2017年度の連携調査団（@ブラジル）来伯時に実施したビジネスマッチングの様子

(2) 宇都宮工業の汚泥除去装置「週一君」で環境を守る！

12月3日から11日にかけて、JICAの「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」を通じ宇都宮工業が来伯し、2回目の現地調査を実施しました。下水処理場での油脂汚泥処理に関する案件化調査を目的とし、パラナ州、サンパウロ州及びミナス・ジェライス州を訪問し、下水処理場の現状調査を行いました。本事業は下水処理の適正化を通じて、都市問題の一つである衛生課題の改善に貢献すると同時に、対象地域における環境負荷を低減した環境配慮型都市の構築を目指しています。

同社製品の「週一君」は、下水処理場で発生するスカムを短時間で全量確実に除去できる装置です。「スカム」とは、下水の底に溜まった汚泥にガスが発生して軽くなり、水面に浮かび上がってできた層のことです。汚泥には油脂質や大腸菌、繊維質などが含まれており、層が厚くなると手で除去するしかない汚物です。

下水処理場のみならず、自動車工場や機械工場などの油まみれの部品を多く扱う会社でも問題になっているようなので、「週一君」の今後のブラジルでの活用が期待されます。



ミナス州上下水道公社と面談

(3) 地下埋設物管理の世界から、デジタルトランスフォーメーション！

11月26日（火）から12月23日（月）にかけて、「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」を通じ、株式会社協振技建（東京都）は「ブラジル国地下埋設物管理プラットフォーム導入に向けた案件化調査」の現地調査を実施しました。第2回目の調査となる今回は、サンパウロ州基礎衛生公社（SABESP）及びサンパウロガス（COMGAS）にご協力頂き、工事現場の視察も行いました。水道管の入れ替え工事を行う現場や、ガス本管の延長工事の現場を訪ね、地下埋設物の状況や工事手順の確認を行い、現場関係者からのヒアリングを行いました。モバイル通信を活用し、現場で地下埋設物の状況を確認しつつ工事を進める事が出来るシステムは、是非欲しい！と現場担当者から高い期待の声を頂きました。

面談した担当者によれば、COMGAS だけでも直近 10 年間で 1 万 km 以上のガス管が新規に埋設されており、一般家庭の顧客増に伴う地下工事の増加、それに伴う工事中の事故のリスクが高まると予測されています。（株）協振技建が提案する「地下埋設物管理プラットフォーム」は、上下水道管、ガス管、電気や通信ケーブル等を管網データとして搭載し、背景地図や気象・交通状況等各種データとともに表示する WEB システムです。道路掘削時の破損事故の防止や工事計画・施工の効率化、費用の削減や工事期間短縮、工事による交通渋滞の軽減が期待されます。また、将来的にデータが整備され、精度が高まると、ロボットによる埋設物工事が可能となる他、公共サービスを利用するデータを活用した新しいビジネス・サービス創造の可能性も秘めており、地下埋設物管理の世界からトランスフォーメーションが生まれようとしています。



SABESP との協議



工事現場関係者からのヒアリング

2. トピックス

(1) 北岡理事長のブラジル訪問と「ODA60周年式典」、「フジタ・ニノミヤチェア理事長特別講義」の実施

ブラジルを訪問した JICA 北岡理事長は 11 月 4 日、のジャパンハウスで開催した「ODA60周年記念式典」へ出席しました。冒頭のスピーチで北岡理事長は、日伯が共に歩んだ 60 年の ODA の歴史は、両国の経済発展を促し、世界経済にもインパクトを与えるものであったと述べました。式典には、ルイ・カルロス・ペレイラ国際協力庁（ABC）長官をはじめ、会場を埋め尽くす 100 名を超える参加がありました。ABC 及びサンパウロ市議会から JICA に対して感謝状が授与され、式典最後には、今年度の JICA 理事長賞を受賞したユカリ・ハマダ氏、国立アマゾン研究所、カンピーナス大学に対し、北岡理事長より表彰状を授与しました。

また、北岡理事長は、サンパウロ大学（USP）に開設した「フジタ・ニノミヤチェア」の創設記念として特別講義「日本の近代化と日伯関係」を行い、500 名超が聴講しました。同プログラムは、日系人初の外交官である故藤田エジモンド氏と、長年日伯関係強化に尽力されてきた二宮正人サンパウロ大学法学部教授の功績を称えて設立されたものです。北岡理事長は、「日本との絆を大切にしてこられたお二人の功績を記念し、その思いを引き継ぐ人材の育成を目指し、お二人の母校である USP へのチェア開設を構想しました。USP がこの思いを受け止めて下さり、開設に至りました」と述べるとともに、開設にあたっての関係者の尽力に感謝を述べました。



ABC 長官からの感謝状



フジタ・ニノミヤチェア理事長特別講義

(2) JAXA 衛星 x 産総研 AI でアマゾン違法伐採の監視強化！新規技プロがスタート！

12月12日、ブラジリアにて、ブラジル環境・再生可能天然資源院（IBAMA）との間で、技術協力プロジェクト「先進的レーダー衛星及びAI技術を用いたブラジリアマゾンにおける違法森林伐採管理改善プロジェクト」に関する討議事録（Record of Discussions: R/D）に署名しました。 本事業は、世界最大の熱帯林を有するアマゾン地域において、レーダー衛星およびAI技術を用いた森林伐採の検知及び予測を実現し、ブラジル政府の違法伐採に関する対策・管理能力の強化を図ります。 2020年4月頃より専門家が来伯し、本格的に案件開始予定です。これにより、アマゾン地域の森林保全活動の改善に貢献し、SDGsのゴール13「気候変動に具体的な対策を」およびゴール15「陸の豊かさも守ろう」の達成に寄与します。



(3) ダイキン主催のKONWAKAIとは？

KONWAKAIはダイキン工業株式会社（以下、ダイキン社）が、空調にかかる政府、業界団体、代表有識者等と「将来の空調のあり方」について意見交換される場として1995年から実施されています。 その中では環境やエネルギー問題について意見交換を行い、技術や製品開発、環境政策立案にも協力、事業展開に生かされています。この度、ブラジル・サンパウロ市において第3回ラテンアメリカ懇話会が1月15日に初めて開催され、ダイキン社とJICAがともに実施している「環境配慮型省エネ空調機普及促進事業」の成果を発表頂きました。 同事業ではダイキン社のインバーターエアコン等の省エネ性の高い空調機をブラジルにも普及することで省エネ化を図ります。

(4) ボランティアの皆さん、発表お疲れ様でした！ @活動報告会

12月4日、JICA ブラジル事務所にて、活動開始から間もなく1年が経過するJICA ボランティア 16名の中間活動報告及び2020年1月に2年間の任期を終え帰国する15名の最終活動報告が行われました。中間報告では、配属先のニーズや地域の課題等に対するこれまでの取り組み状況が報告され、任期後半に向けた目標や意気込みも合わせて伝えられました。2年の任期を終え1月に帰国する隊員たちからは、これまで多くの人々に支えられて活動を行ってきたこと、機会があればまたブラジルに戻りたいこと、何物にも代えがたい経験や学びを得られたことが語られました。



中間及び最終報告を行った JICA ボランティアの皆さん

以上

昨年は大変お世話になりました。2020年も皆様にご関心を持って頂けるよう、内容の充実を図る所存でございます。つきましては、ご意見、ご要望等ございましたら、下記連絡先までご連絡いただければ幸いです。

本年も、どうぞ宜しくお願い致します。

【問い合わせ・連絡先】

国際協力機構（JICA）ブラジル事務所

担当：間瀬 将成

電話：(11)-3251-2655 (ex. 105)

Email：Mase.Masanari@jica.go.jp